

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧  
P.2-3

<13週> 麻疹 - 例年の同時期とくらべ定点当たり報告数がかなり多い / その他最新動向



注目すべき感染症  
P.4

<インフルエンザ> 第13週のインフルエンザ患者報告総数は24,993に減少した



病原体情報  
P.5

インフルエンザウイルス分離・検出報告 / 感染性胃腸炎 - ロタウイルスおよびSRSV検出報告



速報  
P.6-7

小学校で発生した細菌性赤痢集団感染事例 - 静岡県 / 他



海外感染症情報  
P.8-9

アカプルコから帰国した旅行者に急性呼吸器疾患の流行 / チェコ共和国のダニ媒介性脳炎 / 他



感染症の話  
P.10-13

ブドウ球菌食中毒  
毒素型食中毒の代表であるブドウ球菌食中毒は、黄色ブドウ球菌が食品中で増殖する時に産生されるエンテロトキシンが原因となる



麻疹について

読者のコーナー  
P.14



グラフ総覧(13週)  
P.15-21



13週のデータ  
P.22-29



# 発生動向総覧

第13週コメント 4月9日集計分

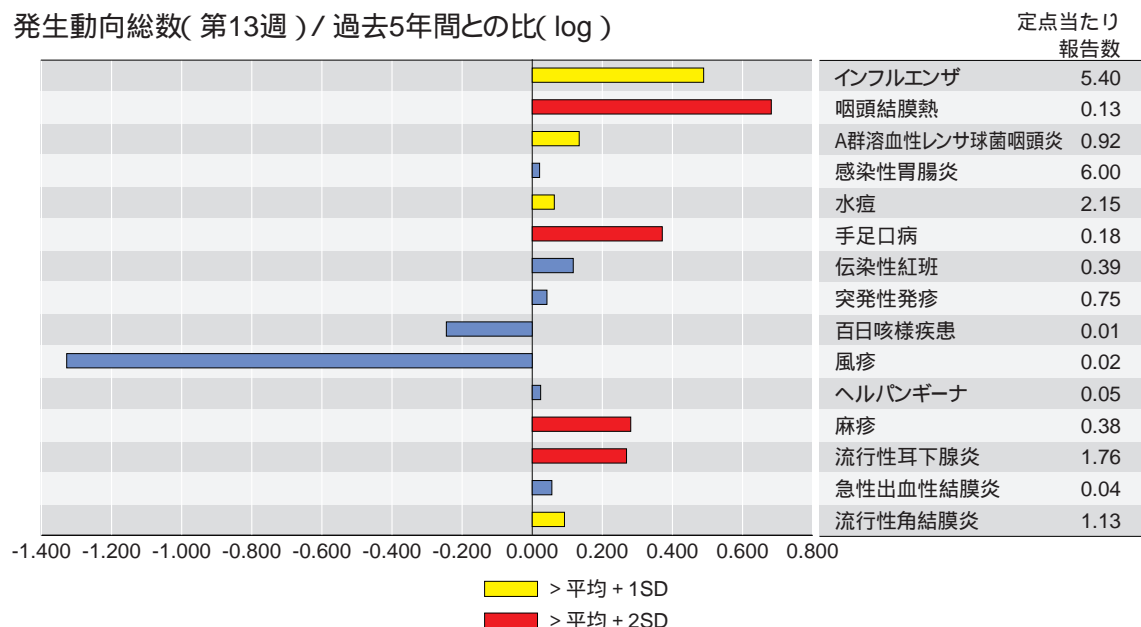
## 全数報告の感染症

- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: コレラ1例(推定感染地: エジプト)、細菌性赤痢13例(推定感染地: 国内1例、インド4例、ネパール3例、ウルグアイ、インドネシア、タイ、ベトナム、カンボジア・タイ各1例)、腸チフス1例(推定感染地: 国内またはインドネシア)
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症38例 栃木県内の工場で加工された牛肉製品が原因と考えられるO157(VT1+、VT2+)集団感染に関連する患者が、千葉県から19例、埼玉県から3例報告されている。両県ともHUS(溶血性尿毒症症候群)を発症した症例が報告されており、さらに影響の拡大が危惧されている(情報の更新は厚生労働省ホームページのトピックス <http://www.mhlw.go.jp/new-info/index.html>を参照のこと)。
- 4類感染症: アメーバ赤痢4例、劇症型レンサ球菌感染症1例、ジアルジア症3例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例  
急性ウイルス性肝炎8例 A型4例  
B型2例\_\_感染経路: 性行為感染2例  
C型2例\_\_感染経路: 不明1例、管轄保健所が感染経路調査中1例  
後天性免疫不全症候群14例( AIDS6例、無症候性キャリア8例)  
感染経路: 不明3例、性行為感染10例(同性間3例、異性間7例) その他1例  
梅毒4例(早期顕症2例、無症候2例)  
マラリア1例(熱帯熱マラリア\_\_推定感染地: スペイン(カナリア諸島)・シエラレオネ・フィリピン)

## 定点把握の対象となる4類感染症(週報対象のもの)

インフルエンザの定点当たり報告数は先週に引き続き減少している。厚生労働省の「インフルエンザ迅速把握(毎日)報告グラフ(インフルエンザキャンペーンホームページ<http://influenza-mhw.sfc.wide.ad.jp/new.html>参照)では、3月20日ごろをピークに患者報告は急速に減少しており、今後、流行は終息に向かうことが示唆される。過去5年間の同時期と比較すると、インフルエンザの定点当たり報告数がやや多くなっているが、これは例年より流行のピークが遅れているからである。定点当たり報告数の今シーズンにおけるピーク値は、流行の大きかった95年や98年と比較した場合、5分の1以下となっている(詳細は4ページ注目すべき感染症参照)。流行性耳下腺炎は、過去5年の同時期と比較してかなり定点当たり報告数が増加しており、福井県で7.3、熊本県で4.4の報告がある。麻疹も例年の同時期とくらべて定点当たり報告数がかなり多く、高知県で2.7、大分県で2.4、熊本県で2.1となっている。咽頭結膜熱、手足口病はオフシーズンとしては例年になく定点当たり報告数が増加している(15～16ページグラフ総覧、咽頭結膜熱、手足口病参照)。

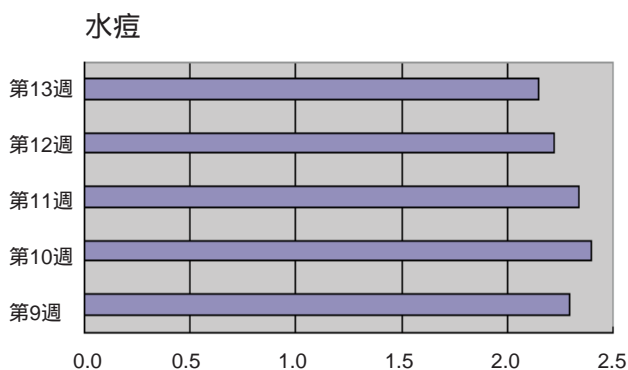
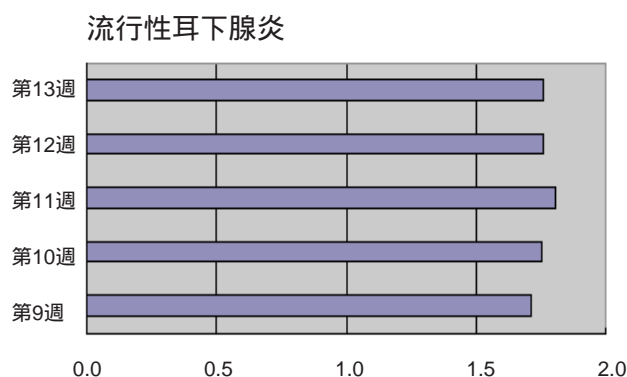
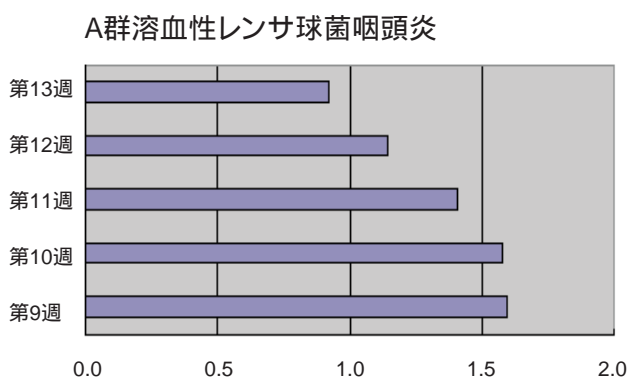
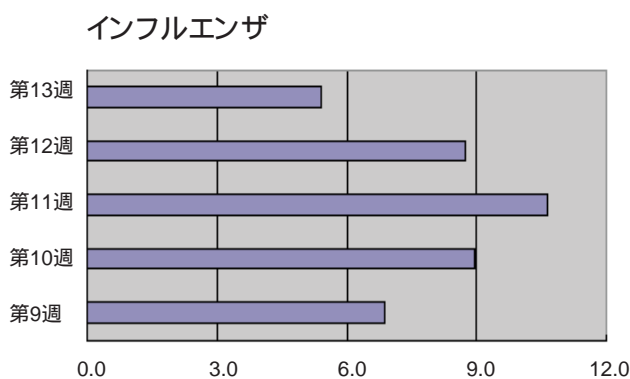
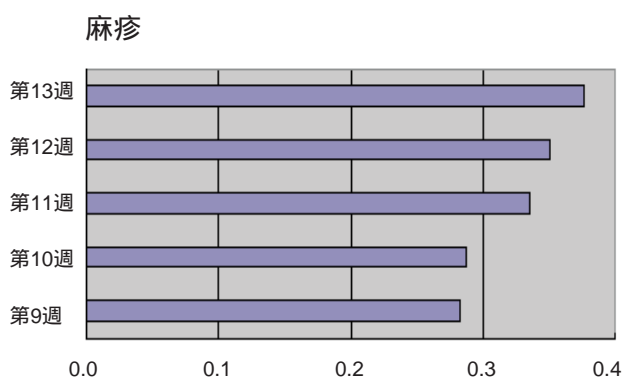
発生動向総数(第13週)/過去5年間との比(log)



当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均)の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

## 最近の注目疾患-5週間の動き

麻疹の定点当たり報告数は増加傾向にある。麻疹は例年3～6月ごろ患者数の増加がみられるが、過去5年間と比較して定点当たり報告数の多い状態が続いているだけに、十分な注意が必要である。インフルエンザの定点当たり報告数は2週続けて減少した。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は減少傾向にある。流行性耳下腺炎はこの数週間定点当たり報告数は横ばいで、例年よりかなり多い状態が継続している。水痘は徐々に減少傾向にある。



(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数(報告総数/定点総数)を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。



# 注目すべき感染症

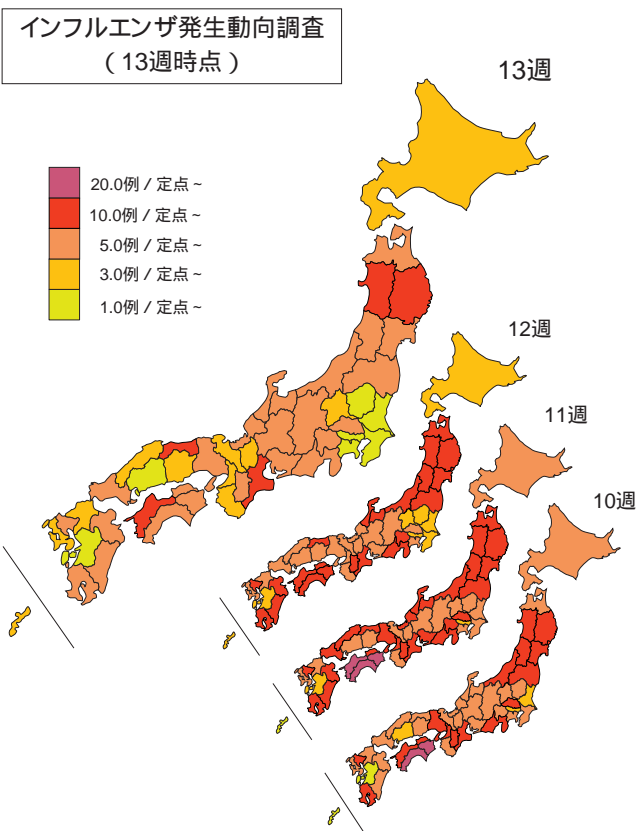
## インフルエンザ流行状況

2000/2001シーズンのインフルエンザ患者発生は、過去5シーズンに比べ立ち上がりが遅く、2001年第5週になって初めて流行開始の指標と考えられる定点当たり報告数1を超え、流行期に入った。その後第7～8週に報告数が倍増し、その後も患者数が増加したが、第11週をピークにここ2週間は連続して定点当たり報告数が減少している。

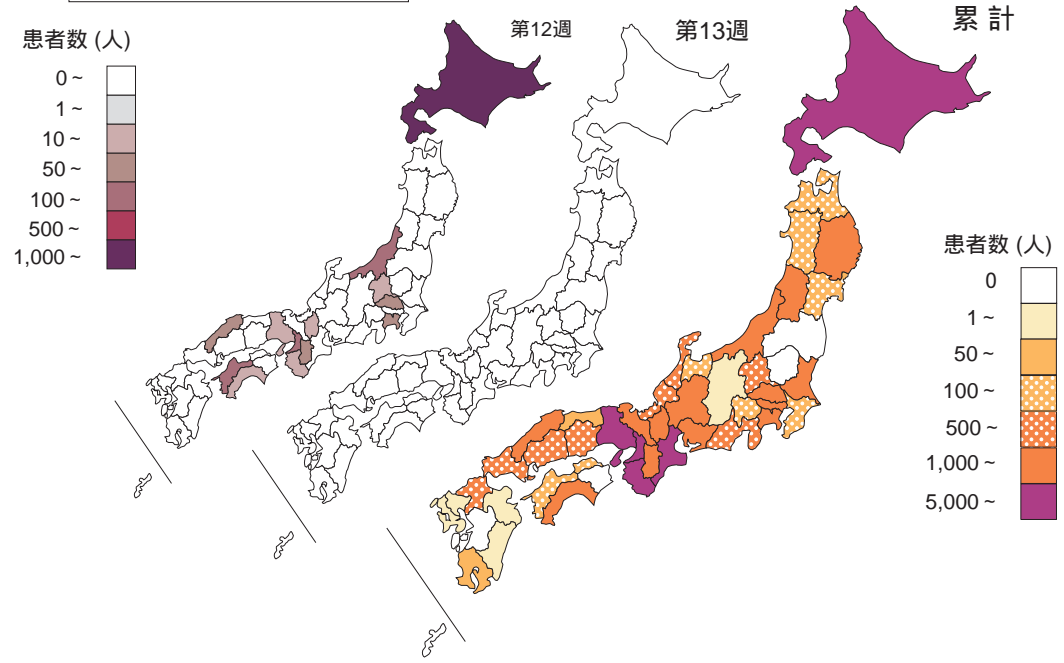
2001年第13週のインフルエンザ患者報告総数は24,993、定点当たり報告数は5.4で、2週前の第11週の半数まで減少した。定点当たり報告数がいまだ10人を上回っているのは、秋田県( 12.5 )、岩手県( 12.3 )、三重県( 10.8 )、鳥取県( 10.1 )、愛媛県( 10.4 )などである( 都道府県別患者発生状況については右図参照。インフルエンザ患者から分離・検出されたウイルスについては5ページ病原体情報参照 )。

厚生労働省健康局結核感染症課のまとめによると、インフルエンザ様疾患発生報告数における学校欠席者数は、平成12年10月29日から平成13年3月31日までの累計で62,513人であり、昨年同期の260,011人に比べ4分の1程度となっている。

感染症発生動向調査警報・注意報発生システムによれば、2001年第13週には、岩手県の3保健所ほか計26保健所にインフルエンザ流行警報、愛知県県の5保健所、秋田県と鹿児島県の4保健所ほか計53保健所にインフルエンザ流行注意報が発生しているが、いずれの発生も前週より減少している。



**インフルエンザ様疾患発生報告 (学級閉鎖に伴う患者調査)**





# 病原体情報

(2001年4月6日現在報告分)

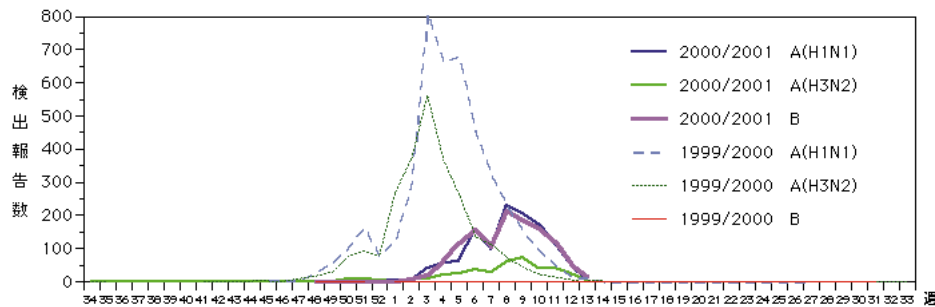
\*グラフはIASRホームページ( <http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html> )からの引用です。

## インフルエンザ 2000/2001シーズン

今シーズンの分離ウイルスは、A/ソ連(H1N1)型が1,203件、A/香港(H3N2)型が398件、B型が1,229件報告されている。昨シーズンはA/ソ連(H1N1)型とA/香港(H3N2)型がともに第3週をピークとして分離されたが、今シーズンの各型のピークはこれより大きく遅れている。最近では、A/ソ連(H1N1)型が第12週に47(13都府県市)、第13週に10(青森県、仙台市、横浜市、熊本県)、A/香港(H3N2)型が第12週に23(8府県市)、第13週に4(仙台市、横浜市)、B型が第12週に53(13府県市)、第13週に17(札幌市、青森県、仙台市、横浜市、広島市、愛媛県)が報告されている。

週別型別インフルエンザウイルス分離・検出報告数の推移、2000/2001シーズン

(病原微生物検出情報: 2001年4月6日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離報告を図に示した。



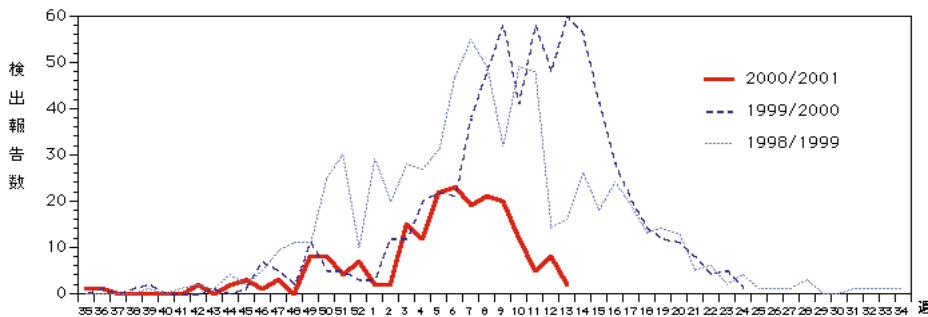
Infectious Agents Surveillance Report

## 感染性胃腸炎 2000/2001シーズン ロタウイルスおよびSRSV検出報告

今シーズンのロタウイルスの検出は204件、SRSVの検出は651件報告されている。最近では、ロタウイルスは第12週に栃木県1、新潟県2、大阪府5、第13週に新潟県2、SRSVは第11週に青森県1、栃木県2、新潟県4が報告されている。

週別ロタウイルスの検出報告数、過去2シーズンとの比較(1998/1999、1999/2000、2000/2001)

(病原微生物検出情報: 2001年4月6日現在報告数)



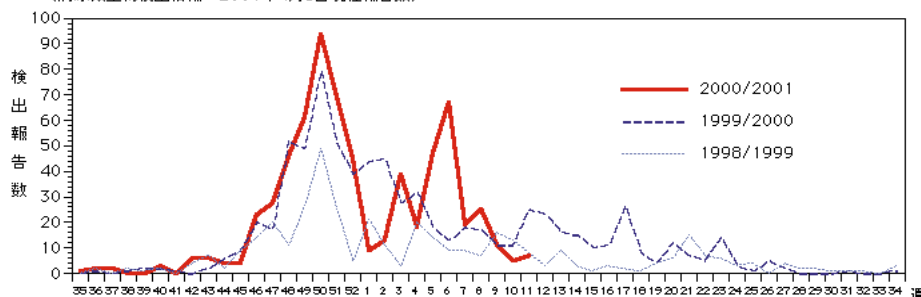
各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。



Infectious Agents Surveillance Report

週別SRSV検出報告数、過去2シーズンとの比較(1998/1999、1999/2000、2000/2001)

(病原微生物検出情報: 2001年4月6日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。



Infectious Agents Surveillance Report





## 小学校で発生した細菌性赤痢集団感染事例 - 静岡県

2000年10月下旬～11月初旬にかけて、県中部の一小学校を中心に細菌性赤痢の集団感染が確認された。10月28日、一児童が細菌性赤痢と診断され、11月2日までの患者は初発患者を含めて5名となり、一小学校1年生同一クラスを中心とした集団感染事例となった。直ちに、保健所による関係場所の消毒、給食施設( 検食、ふきとり材料 )、使用水などの検査、全校児童・教職員・患者家族・近隣一幼稚園の園児および職員などの検便が実施された。その結果、給食施設のふきとり材料、検食、使用水などからは赤痢菌はまったく検出されなかった。一方、検便では、同小学校1年の6歳男児2名と7歳女児2名、1歳の男児( 患者の弟 )1名、6歳の保育園児( 患者の弟 )1名、33歳女性( 患者の母親: 保菌者 )1人の7名から赤痢菌が検出され、11月15日までに計12名( 患者11名、保菌者1名 )から赤痢菌が検出された。その後、新たな患者や保菌者の発生はなかった。患者のほとんどは入院したが、いずれも症状は軽く、軟便、微熱、軽度の下痢が主体で、発熱、粘血便は1～2名であった。

分離菌はいずれも、*Shigella sonnei* 1相菌であり、それらについて薬剤感受性試験( アンピシリン( ABPC )、ストレプトマイシン( SM )、テトラサイクリン( TC )、シプロフロキサシン、カナマイシン、セフトキシム、クロラムフェニコール、スルファメトキサゾール/トリメトプリム合剤( ST )、トリメトプリム、ナリジクス酸、ホスホマイシン、ゲンタマイシンの12薬剤 )を実施した結果、ABPC、SM、TC、ST、トリメトプリムの5剤に耐性を示した。また、並行して実施したパルスフィールド・ゲル電気泳動による制限酵素( *Xba*I )切断パターンの比較では、1～2本のバンド差はあるものの、いずれも類似パターンを示していることから、同一の感染源によるものであることが示唆された。

今回の事例では患者発生が限局していたが、疫学調査の結果( 患者に海外渡航歴がないこと、県外で感染した可能性がないこと、検食や使用水などから赤痢菌は検出されないことなど )からは感染源、感染経路を特定することはできなかった。

最近の県内における細菌性赤痢の発生は毎年散発的に数例あるが、海外渡航者が多く、国内感染例は稀である。また、県内の集団発生事例として、1992年3月伊豆の病院における患者数7名の院内集団事例、1998年9月県西部の知的障害者更生施設における患者数延べ21名の集団感染事例がある。

今回のような国内感染による集団感染事例の発生も十分考えられることから、今後さらに感染源や感染経路の特定に努めることが重要である。

静岡県環境衛生科学研究所微生物部

増田高志 有田世乃 川森文彦 秋山真人

( IASR2001年4月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照 )

## メキシコ・アカプルコにてヒストプラズマ症を疑う集団発生 ( 国際旅行医学会からの連絡 )

本年3月にメキシコ・アカプルコに滞在した米国の学生174人( 4月8日現在 )が発熱、呼吸器症状を訴え、真菌症の一種であるヒストプラズマ症が疑われています。現在までに、肺生検の組織像にて2例にヒストプラズマが見つかり、培養での陽性も1例見つかり、血清学的検査で疑わしい例も見られています。多くの例はCalinda Beach Hotelに宿泊したか、訪ねたりしています。

米国CDCでは次の様なケースを問題としています。

- 1) 本年3月1日以降アカプルコに滞在したこと。
- 2) 3日以上続く発熱。
- 3) 乾性咳嗽、胸痛、息切れ、頭痛のいずれか。

日本に帰国した旅行者で該当する方がいるのか解りませんが、医療従事者その他の医療関係者が周知しておかれるよう望みます。ヒストプラズマ症は国内で稀であり、そのような患者さんの診断・治療が遅れがちになることを危惧するからです。

関連記事は本号「海外感染症情報」に、ヒストプラズマ症については2001年第1週「感染症の話」に掲載してあります。

国立感染症研究所感染症情報センター



## 海外感染症情報

### アカプルコから帰国した旅行者に急性呼吸器疾患の流行

CDC/Travelers' health-outbreaks 2001年4月6日

3月にアカプルコ(メキシコ)を旅行した米国の大学生が高熱、頭痛、乾性咳嗽および悪寒を伴った急性呼吸器疾患で医療機関を受診したことがCDCに報告された。病因についての検査は進行中であるが、予備的な検査結果からはヒストプラズマ症が示唆されている。ヒストプラズマ症は真菌症の一種で、肺に感染する。ヒトからヒトへの感染は起こさない。

疾患に罹患した人は全員アカプルコのCalinda Beach Hotelを訪れていた。3月にアカプルコに旅行した人、特にCalinda Beach Hotelを訪れた人で症状がある人は医療機関を受診すべきである。CDCは全米50州の公衆衛生当局に、他に患者が発生していないかを問い合わせている。

### アフリカ髄膜炎ベルトにおける髄膜炎菌感染症 - 更新

WHO/CSR 2001年4月5日

ブルキナファソ: 2001年1月1日から4月1日の間に、1,137人の死者を含む7,751人の患者が報告された。

ベニン: 北部のBorgou、Atacoraの2地域で2001年1月1日から3月18日の間に、265人の死者を含む6,147人の患者が報告された。

チャド: 2000年12月25日から2001年3月18日までの間に、401人の死者を含む3,579人の患者が報告された。

中央アフリカ共和国: 北西部のチャドとカメルーンの国境地帯沿いのPaoualにおいて、2001年2月18日から3月20日の期間に、343人の死者を含む1,816人の患者が報告された。

エチオピア: ほぼ全土から3月24日までに、197人の死者を含む3,521人の患者が報告された。

ガンビア: 2000年11月から2001年3月26日までにUpper Riverで、21人の死者を含む137人の患者が報告された。

### 2001年メッカ巡礼(haj)に関連した髄膜炎菌感染症 - 更新

Eurosurveillance weekly 2001年4月5日

2001年のhajに関連した髄膜炎菌感染症患者は4月5日までに15例で、その中にはイングランドおよびウェールズでの5例の死亡例も含まれている。2週間前のEurosurveillance weeklyでの報告以降5例増加した。8症例から血清型W135の髄膜炎菌が分離されており、この菌は2000年のhajに関連した分離株と同一株である。患者のうち9例は巡礼者で、6例は巡礼者との接触者であった。さらに、W135型の4例(一人が死亡例)は今のところhajとの関係がないことが確かめられている。

W135型の感染者数については、haj後の最初の3週間における患者数が14例であり、2000年の18例に匹敵する数である。



### チェコ共和国のダニ媒介性脳炎

Eurosurveillance weekly 2001年3月28日

ダニ媒介性脳炎はロシア、オーストリア、チェコ共和国を含む中央・東ヨーロッパの多くの国で流行している。チェコ共和国で過去の年間の患者数は1993年:629人、1994年:619人、1995年:743人、1996年:571人、1997年:415人、1998年:422人、1999年:490人、2000年:719人である。

中央ヨーロッパのダニ媒介性脳炎での潜伏期間は、7日から14日である。症状は通常二相性を示す。初期症状は、発熱、頭痛、吐き気、嘔吐を伴う非特異的なインフルエンザ様の症状であり、1週間続く。数日間症状が軽快した後に再び発熱し、無菌性髄膜炎または脳脊髄炎を発症する。致命率は1～5%で、回復した人の約20%に神経学的障害が残る。運動系に後遺症が残ることはまれである。

ダニ媒介性脳炎に対しては、予防効果があり安価な不活化ワクチンの接種が可能である。チェコ共和国や他の流行地域への旅行者は、滞在期間、滞在地(都市部か郊外か)そして流行地域を訪れるかどうか(チェコ共和国の南部とボヘミアの西部の地域)についての3つの要因を考えた上で、予防接種を受けるかどうか決定するべきである。3週間以上滞在するか、郊外の流行地を訪れるか、キャンプをする人などには予防接種が勧告されている。



# 感染症の話

## ブドウ球菌食中毒

黄色ブドウ球菌 (*Staphylococcus aureus*) は、歴史的には Koch (1878年) が膿汁中に発見し、Pasteur (1880年) が培養に成功したとされている。ブドウ球菌は、「Bergey's Manual of Determinative Bacteriology」の7版(1957年)では、*S. aureus* (黄色ブドウ球菌) と *S. epidermidis* (表皮ブドウ球菌) の2菌種に過ぎなかったが、その後新しい菌種が次々と追加され、1997年現在、28菌種、10亜種に及んでいる。この中で特に黄色ブドウ球菌は、化膿巣形成から敗血症まで多彩な臨床症状を引き起こし、種々の市中感染症、新生児室感染症、院内感染症、および毒素性ショック症候群等の起因菌となる。特にメチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) は、院内感染や術後MRSA腸炎の原因となり、重要な問題となっている。さらに、黄色ブドウ球菌は食品中で増殖すると、エンテロトキシンと呼称される毒素を産生し、ブドウ球菌食中毒の原因となる。

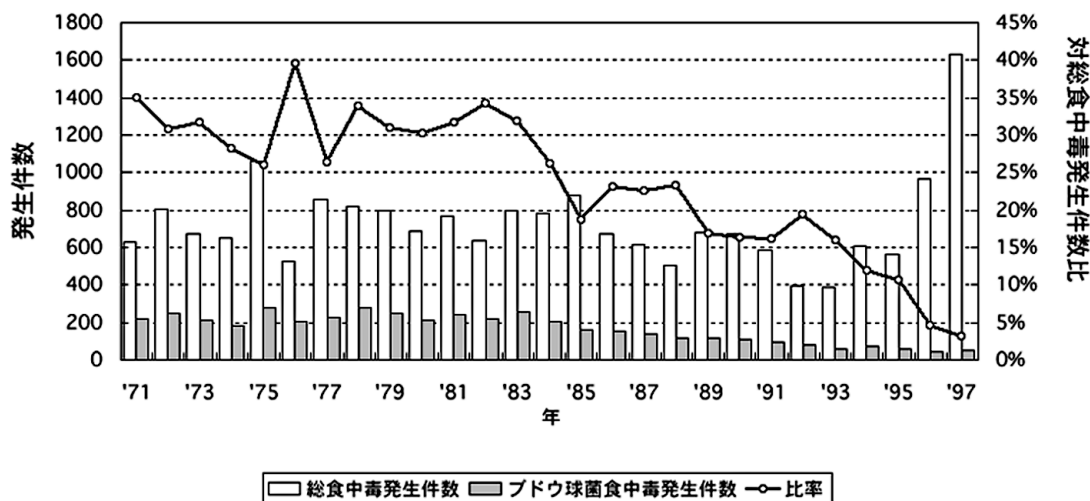
このように、黄色ブドウ球菌は多彩な疾患の原因となるが、今回は、毒素型食中毒の代表であるブドウ球菌食中毒について記述する。

### 疫学

黄色ブドウ球菌は、ヒトを取り巻く環境や各種の哺乳動物、鳥類等に広く分布している。特に、健康者の鼻、咽頭、腸管等に分布し、健康者の本菌保有率は20～30%であるとされている。

わが国の過去29年間のブドウ球菌食中毒事例の年次推移を図1に示した。1984年までは年間200事例以上の発生がみられていたが、1985年以降経年的に漸次減少し、1985年には163事例、1991年には95事例、1995年には60事例となり、年間の事例数は劇的に減少している。ブドウ球菌食中毒の全食中毒事例に占める割合は、1984年以前は25～35%であったが、1985年以降25%以下となり漸次減少傾向を示し、1995年には約10%、1997年には3%まで減少した。その理由は、ブドウ球菌食中毒の最大の原因食品であった「にぎりめし」による食中毒が激減したためであると考えられている。しかし、2000年に大規模発生した雪印ブドウ球菌食中毒事件のように、小さな事

図1 わが国におけるブドウ球菌食中毒件数の年次推移(1971-1997)



故から想像もできない大事件に発展する可能性もある。

黄色ブドウ球菌の型別法として実用化されている方法には、ファ-ジ型別とコアグラゼ型別法がある。わが国で食中毒の疫学解析に応用されているのは、コアグラゼ型別法であり、本法は、黄色ブドウ球菌が産生するコアグラ-ゼ(抗原性のあるタンパク)を利用した型別法で、現在I～X型の10種類に型別可能である。黄色ブドウ球菌食中毒事件由来株では、その約70%がⅦ型であり、その他、多い順にⅢ型、Ⅱ型、Ⅳ型である。近年、これまでほとんど食中毒の起因菌とならなかったⅣ型菌による事例も増加傾向にある。

### 病原体

ブドウ球菌食中毒は、黄色ブドウ球菌が食品中で増殖する時に産生するエンテロトキシンを、食品と共に摂取することによって起こる毒素型食中毒である。

エンテロトキシンは分子量27,000前後の単純蛋白質で、トリプシンなどの消化酵素や熱に対して抵抗性があり、抗原性の違いから現在A～L型までが報告されている。食中毒事件中、最も発生件数の多いエンテロトキシン型はA型で、A+B型、A+D型を合わせると、80%以上はA型に関連している。また、エンテロトキシンはT細胞を特異的に活性化し、短時間に多種類のサイトカインを大量産生させる作用があり、「細菌性スーパー抗原」とも称されている。ヒトでエンテロトキシンによる発症に必要な量は、エンテロトキシンBでは25～50 μgと考えられていたが、加工乳などの事件では200ng以下のエンテロトキシンAで発症していることも報告されている。

実験動物スンス(*Suncus murinus*)の腹腔内にエンテロトキシンAを投与すると、約90分後に嘔吐が周期的に複数回みられ、この嘔吐は腹部迷走神経切断処理、セロトニン受容体拮抗薬の前投与、さらにセロトニン枯渇薬の前処理等により抑制された。これらの結果から、エンテロトキシンAによる嘔吐の発症に、セロトニンが深く関わっていることが明らかにされている。また、イヌ結紮十二指腸ループ内にエンテロトキシンAを投与すると、約90分後に腸液の分泌亢進がみられ、約150分後にピークに達し、約210分後に正常に戻った。ループ内外の組織を透過電顕で観察すると、腸クロム親和細胞(EC細胞)にだけ顆粒の変化がみられた。さらに、免疫組織化学的観察にて、セロトニンの染色性が低下していることが観察されている。これらの研究結果は、ブドウ球菌食中毒の特徴的な症状である嘔吐と下痢は、エンテロトキシンがEC細胞からのセロトニン分泌を誘発することによって起こる生体反応であることを強く示唆している。

### 臨床症状

黄色ブドウ球菌は、食品中で増殖する時エンテロトキシンと呼称される毒素を産生する。エンテロトキシンが産生された食品を喫食すると、約3時間後に激しい嘔気・嘔吐、痙攣性腹痛、下痢を伴う急激な急性胃腸炎症状を発する。毒素量などの違いにより症状には個人差がみられるが、まれに発熱やショック症状を伴うこともある。重症例では入院を要する。一般には予後は良好で、死亡することはほとんどなく、通常1日か2日間で治る。

2000年に発生した患者数13,000名を超える雪印ブドウ球菌食中毒事件では、原因食品が加工乳などであったため、対象者が成人、子供、老人、病人など様々で、その症状も嘔気・嘔吐、下痢の他に、多彩な臨床症状がみられている。

**病原診断**

ブドウ球菌食中毒の検査では、まず、原因食品、糞便、吐物、拭き取り等の検査材料から黄色ブドウ球菌を分離する。そして、疫学的にブドウ球菌食中毒を証明するためには、分離菌株のエンテロトキシン産生性を調べ、コアグラ-ゼ型別を実施する必要がある。ブドウ球菌食中毒と判定するためには、分離された菌株が健康保菌者由来でないことを慎重に判断することが重要である。

また、ブドウ球菌食中毒は毒素型食中毒であり、原因食品から直接エンテロトキシンを検出できる場合もある。原因食品から直接正確に、そして簡易・迅速にエンテロトキシを検出することが可能であれば、短時間にブドウ球菌食中毒を決定することができる。雪印ブドウ球菌食中毒事件では、原因食品である加工乳などから黄色ブドウ球菌は検出されず、エンテロトキシンAのみが、加工乳1ml当たり0.05ng以上検出された。この様に、黄色ブドウ球菌は加熱により死滅するが、耐熱性であるエンテロトキシンが食品中に検出される食中毒事例も、数は少ないが報告されている。

現在、わが国で入手可能な市販のエンテロトキシン検出用キットの概略を表1に示した。これらの中には、エンテロトキシンをA型～E型に型別できるキットと、型別できないがA型～E型のいずれかのエンテロトキシンが存在するか否かを検査するキットがある。雪印ブドウ球菌食中毒事件の原因食品である加工乳などからのエンテロトキシン検査では、エンテロトキシン濃度が低いために、種々の方法で濃縮や除蛋白などの前処理が必要であった。前処理は時間を費やし、さらに検査精度を低下させる危険性もある。今後、加工乳の品質保証のためにエンテロトキシン検査を行うには、簡便で、高感度の検査法の開発が要求される。

ブドウ球菌食中毒を決定するためには、患者の発症までの潜伏時間や臨床症状の他に、以下の検討が必要となる。

1. 患者便から高率に黄色ブドウ球菌が検出される。
2. 食品残品から黄色ブドウ球菌が検出される。
3. 1および2で検出された黄色ブドウ球菌がエンテロトキシン産生性であり、コアグラ-ゼ型が一致する。
4. 食品の残品から直接エンテロトキシンが検出される。

特に、小型球形ウイルス(SRSVまたはNLV)等によるウイルス性嘔吐・下痢症の場合にも、患者便からある程度の割合(30%程度)で黄色ブドウ球菌が検出されることが多いので、黄色ブドウ球菌が検出された事実のみで本菌による食中毒と決定することはできない。

表1. 市販されているブドウ球菌エンテロトキシン検出用キット

商品名	取り扱い会社	検出感度	所要時間
SET-RPLA「生研」	デンカ生研(株)	1-2ng/ml	18-20時間
バイダスSET	日本バイオメリュー(株)	0.25-1ng/ml	80分
黄色ブドウ球菌毒素 ELISA kit SETVIA48 (TECRA製)	セティカンパニーリミテッド	1ng/ml	約4時間
黄色ブドウ球菌毒素 ELISA kit R4101 (R-Biopharm製)	同上	1ng/ml	約4時間
トランジアプレートブドウ球菌エンテロトキシン (Diffchamb製)	メルク・ジャパン(株)	0.25-1ng/g	約90分
RIDAスクリーン黄色ブドウ球菌エンテロトキシン	アツマックス(株)	0.2-0.7ng/ml	約3.5時間

### 治療・予防

本菌による食中毒患者への特別の治療法はなく、補液と対症療法を行い経過をみる。下痢止めは使用しない。予後は良好で、1日か2日で回復する。

予防には、食品製造業者や食品製造従事者への衛生教育の啓発が大切である。手洗いの徹底、食品の10℃以下での保存、手指に化膿巣のある人は食品を直接触ったり、調理しない。さらに調理にあたっては、帽子やマスクを着用する。そして、食品製造から消費までの時間を短縮することを心掛ける。

### 食品衛生法での取り扱い

食中毒が疑われる場合は、24時間以内に最寄りの保健所に届け出る。

(東京都立衛生研究所微生物部 甲斐 明美、  
国際学院埼玉短期大学食物栄養科 五十嵐 英夫)





## 読者のコーナー

Q: 麻疹について、以下の3点についてお尋ねします。

- ①麻疹ワクチン接種後、麻疹患者と接触したことがわかり、接触してから75時間程度( 3日以上 ) たったいたと考えられるため、麻疹ワクチン接種3時間後にガンマグロブリンを打ちました。この処置は発病阻止又は軽症化のための処置として適当でしょうか。
- ②ガンマグロブリンにより麻疹ワクチンが中和され、ワクチンの効果が低下することも考えられますがいかがでしょうか。
- ③また、ワクチンの効果が低下する場合、再度麻疹ワクチンの接種が必要でしょうか。

( 石川県石川中央保健福祉センター )

麻疹について

ご質問のありました麻疹について回答させていただきます。参考になれば幸いです。

まず、①について、麻疹患者と接触した場合の発病阻止又は軽症化にガンマグロブリンを接種された処置は適切であったと考えます。ただし、ガンマグロブリンが血液製剤であることについては、被接種者あるいは保護者に十分に説明し、同意を得た上での投与が重要であると考えます。筋注か静注かの記載がご質問の中にはありませんでしたが、麻疹の発病阻止又は軽症化のためには、曝露後できるだけ早く、遅くとも6日以内に筋注用ヒト免疫グロブリンを接種することが保険で認められており、10 ~ 15mg/kgにて軽症化、50mg/kg以上にて発病阻止効果があるといわれています。接触してから72時間後の麻疹ワクチン接種では発病阻止又は軽症化は困難と考えますので、この場合、この方法が取り得る最適な方法であると思います。

②については、ご質問の通りで、ガンマグロブリンを投与されていますので、麻疹ワクチンとしての効果は期待できません。③の質問にも関連しますが、3カ月間はガンマグロブリンの効果によって麻疹の予防はできると思いますが、その後の麻疹の予防には麻疹ワクチンの再接種が必要になります。

③について、ガンマグロブリンの効果は1カ月で半減、3カ月ではほぼなくなります。ただし、ガンマグロブリン投与後3カ月以内に麻疹ワクチンを接種しても、効果が十分得られないため、麻疹ワクチンを再接種する場合は、ガンマグロブリン投与後3カ月以上空けて接種してください。

( 国立感染症研究所感染症情報センター )

\*\*\*\*\*

「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。  
ご意見・ご質問は、題名( タイトル )の一番はじめにidwr-Q:をつけてこちらまでEメールでどうぞ。

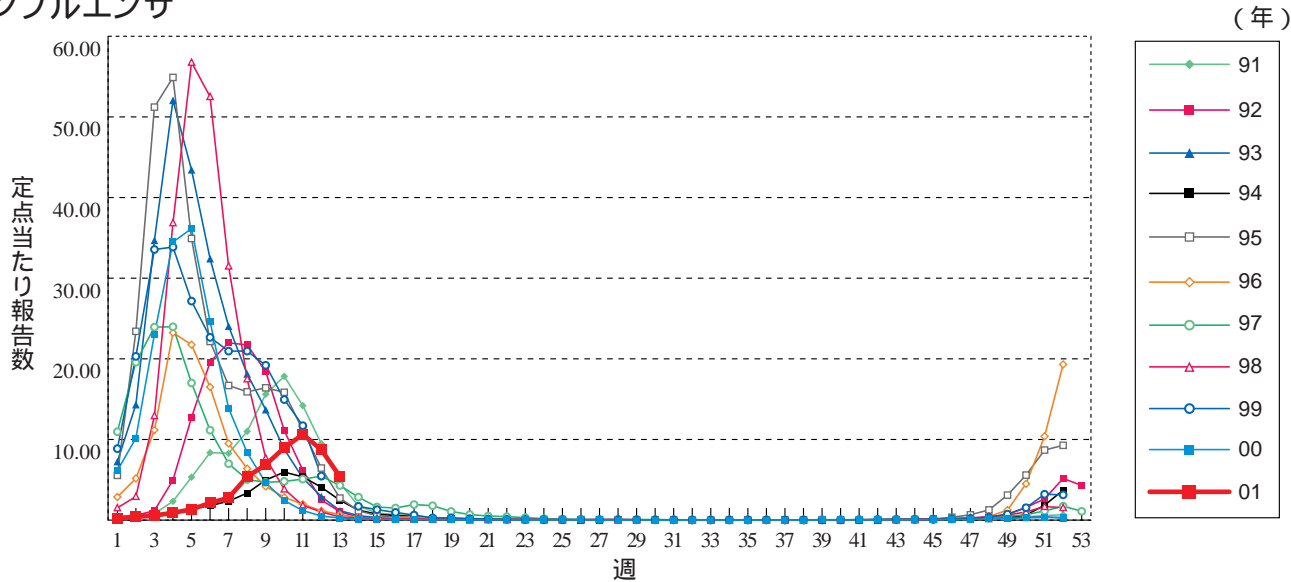
[idsc-query@nih.go.jp](mailto:idsc-query@nih.go.jp)



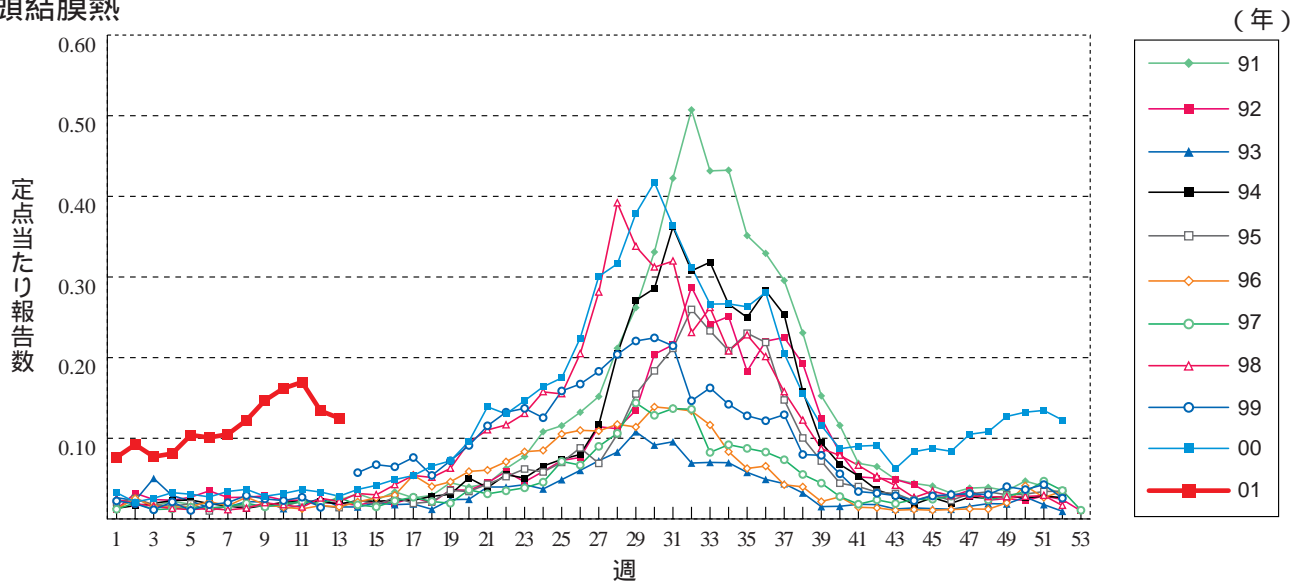


**グラフ総覧(13週)**

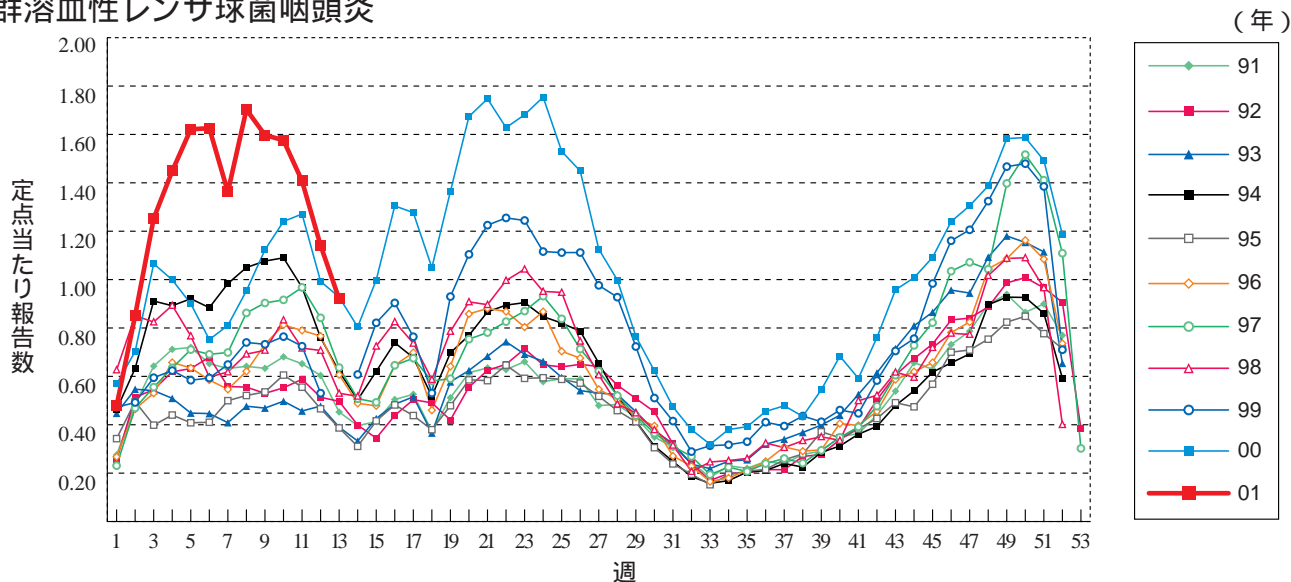
**インフルエンザ**



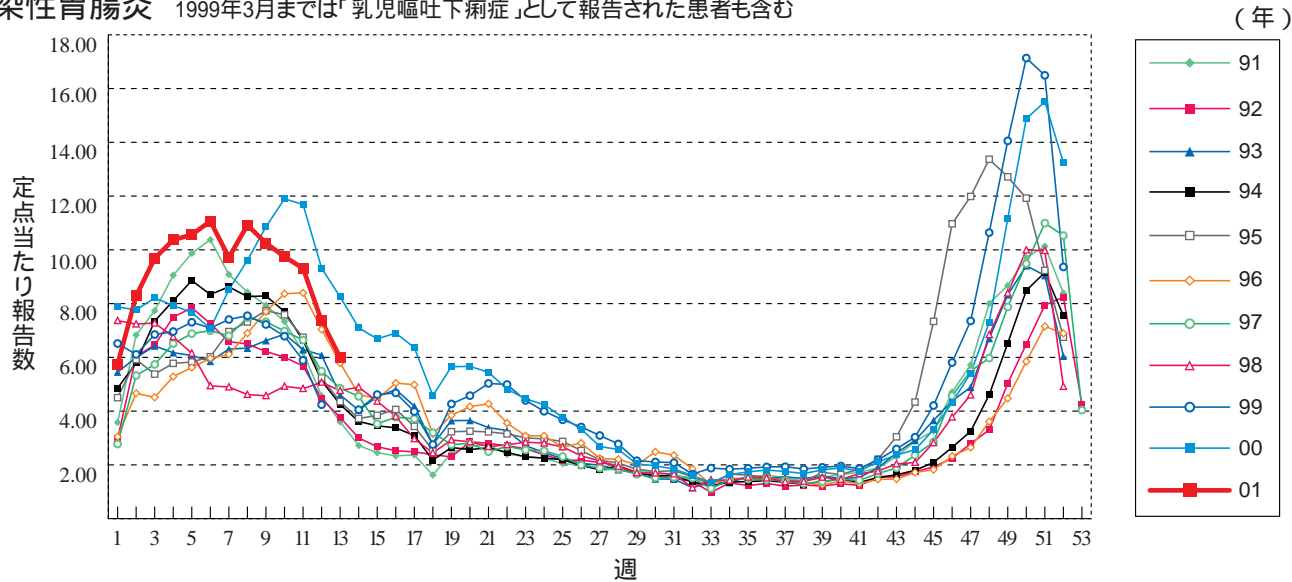
**咽頭結膜熱**



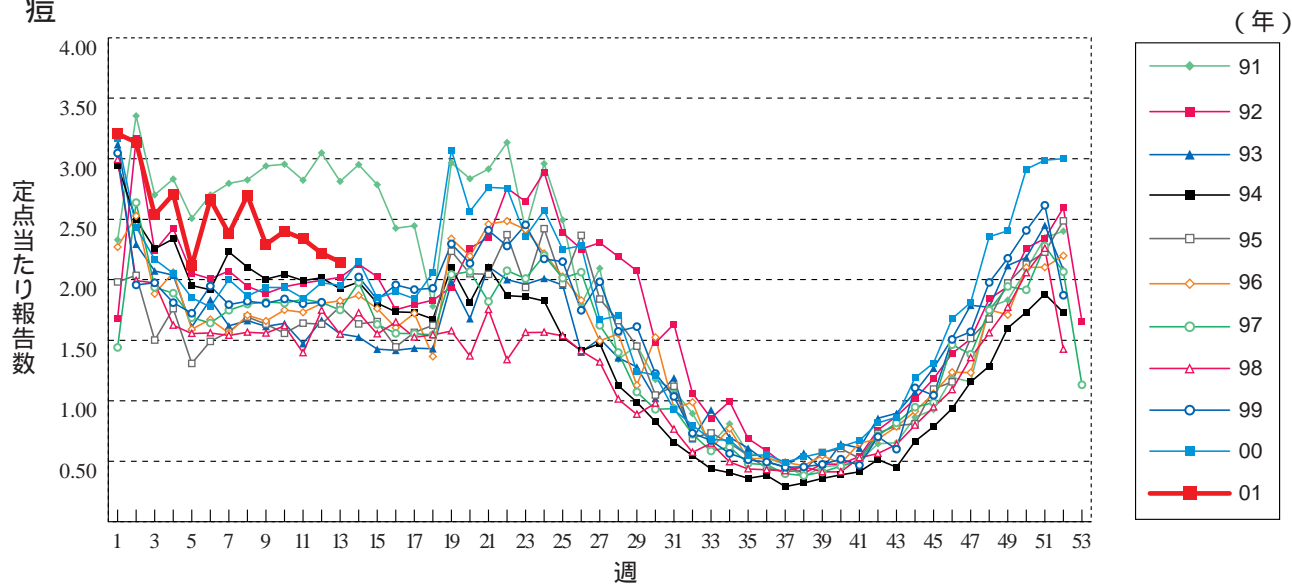
**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**



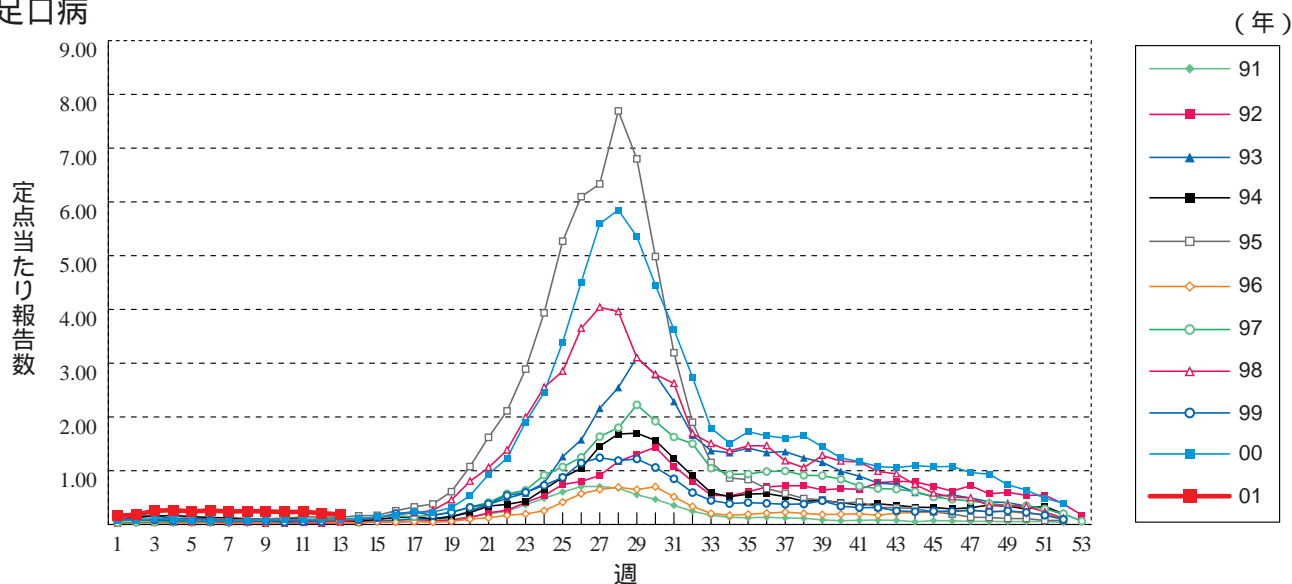
**感染性胃腸炎** 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



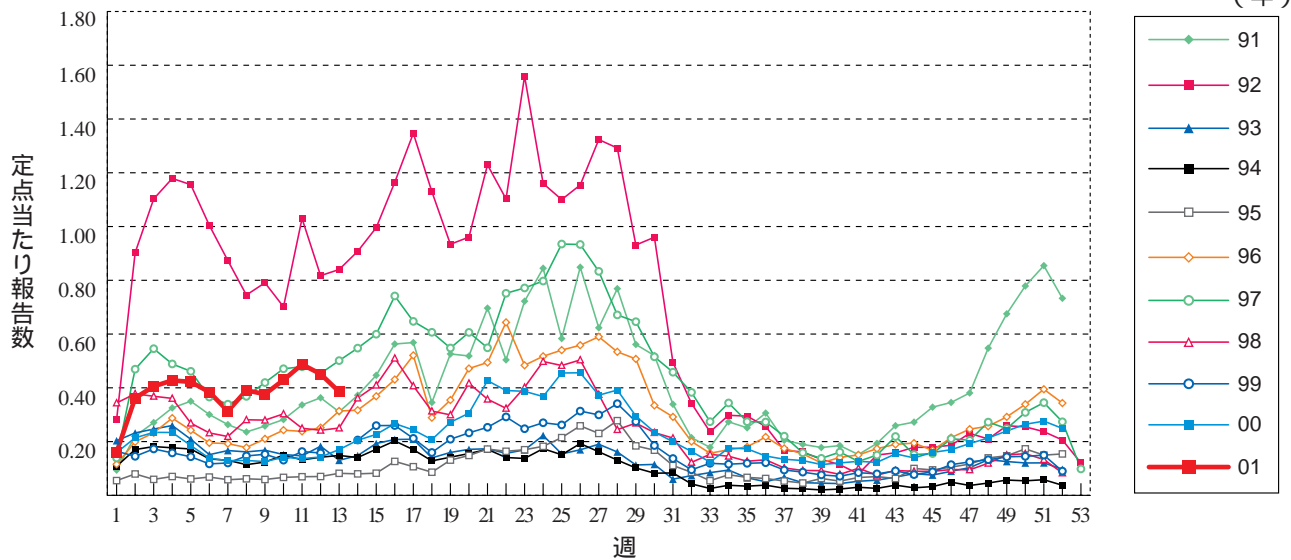
**水痘**



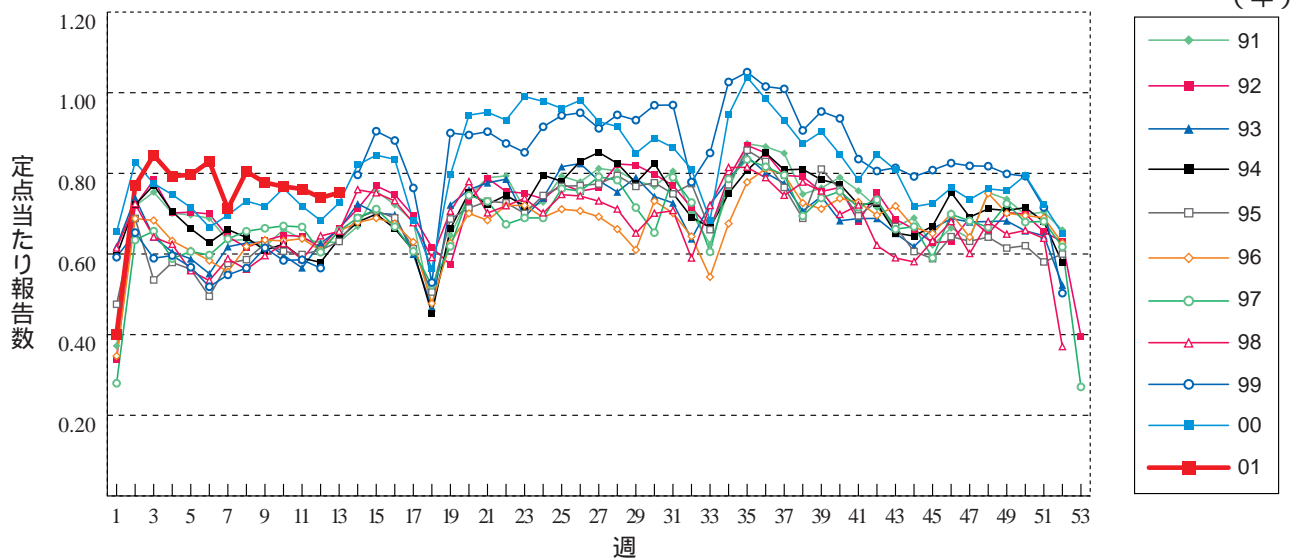
**手足口病**



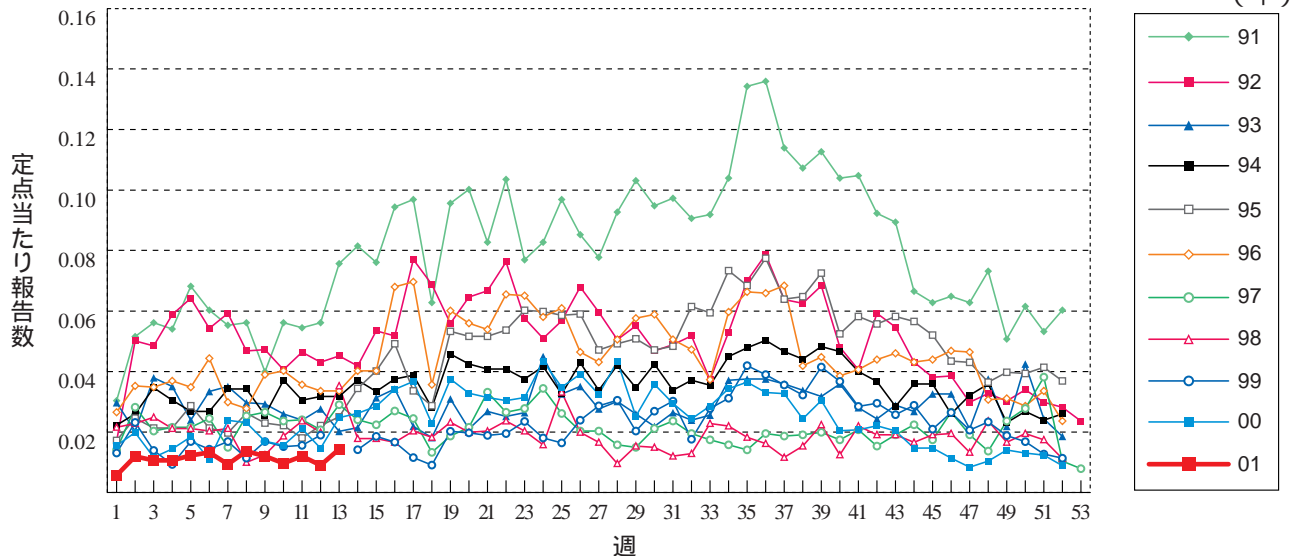
伝染性紅斑



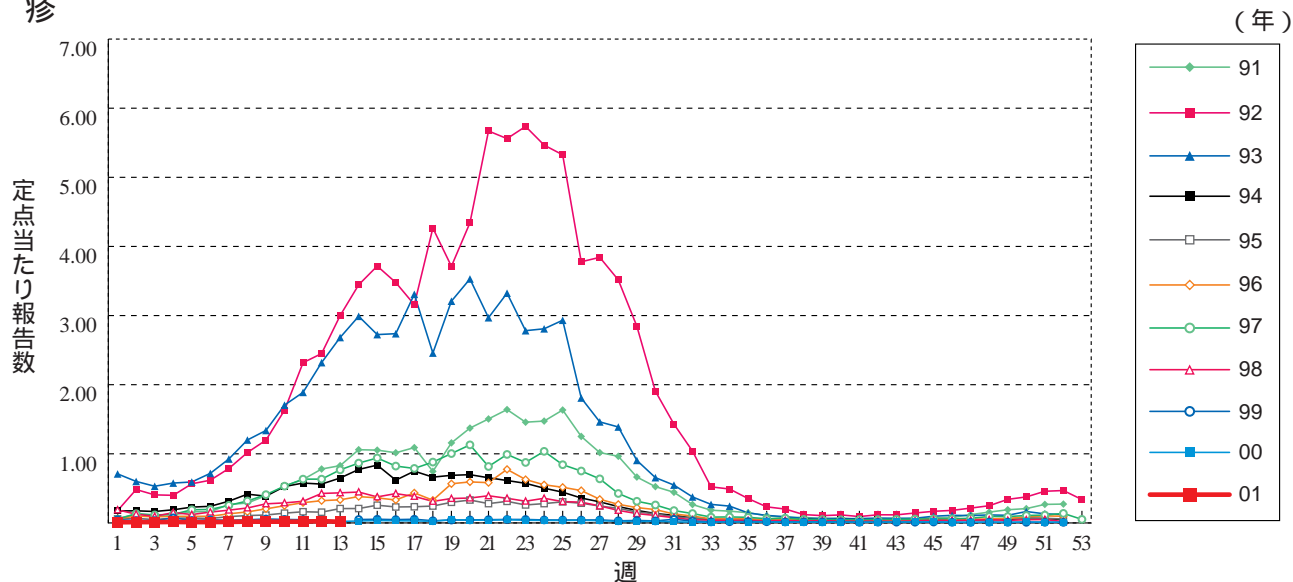
突発性発疹



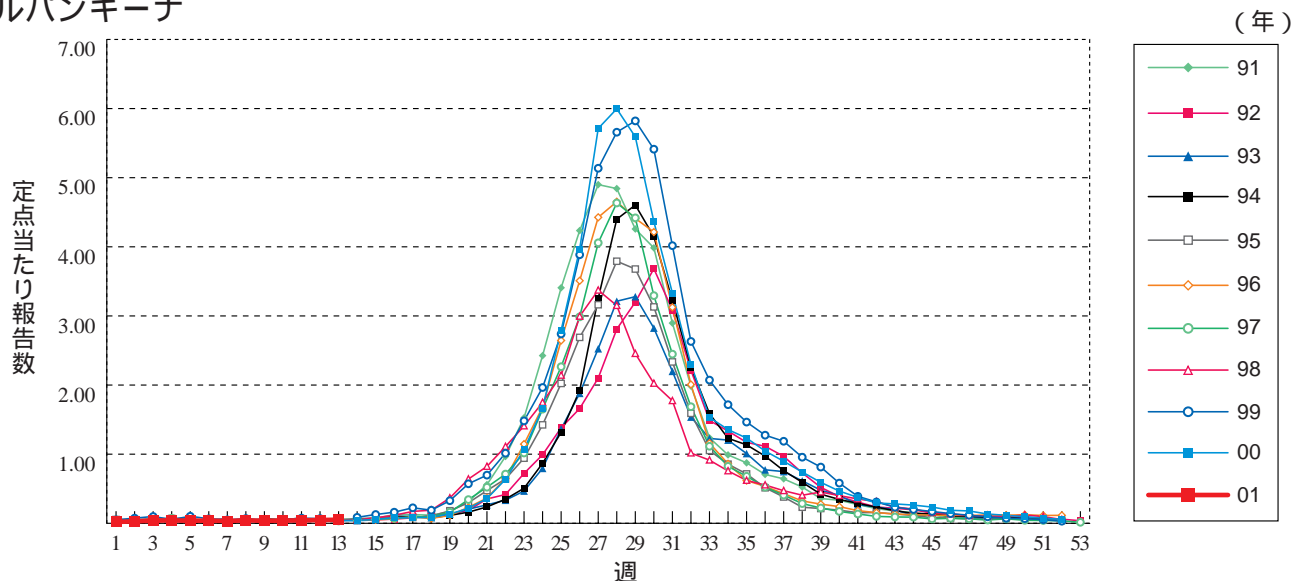
百日咳



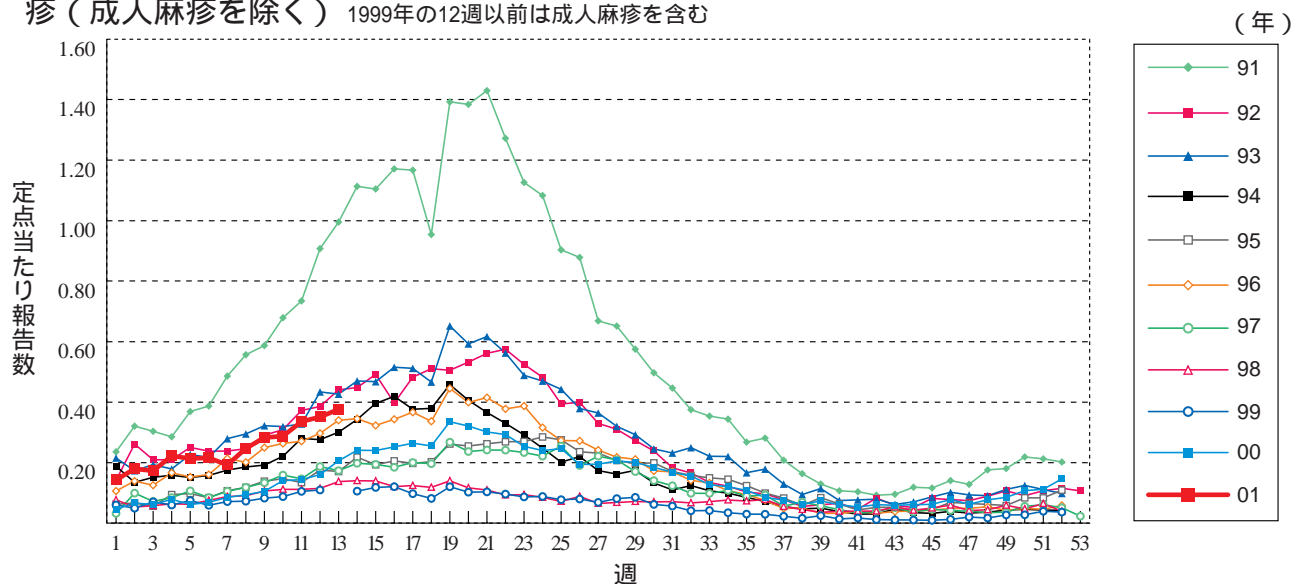
風 疹



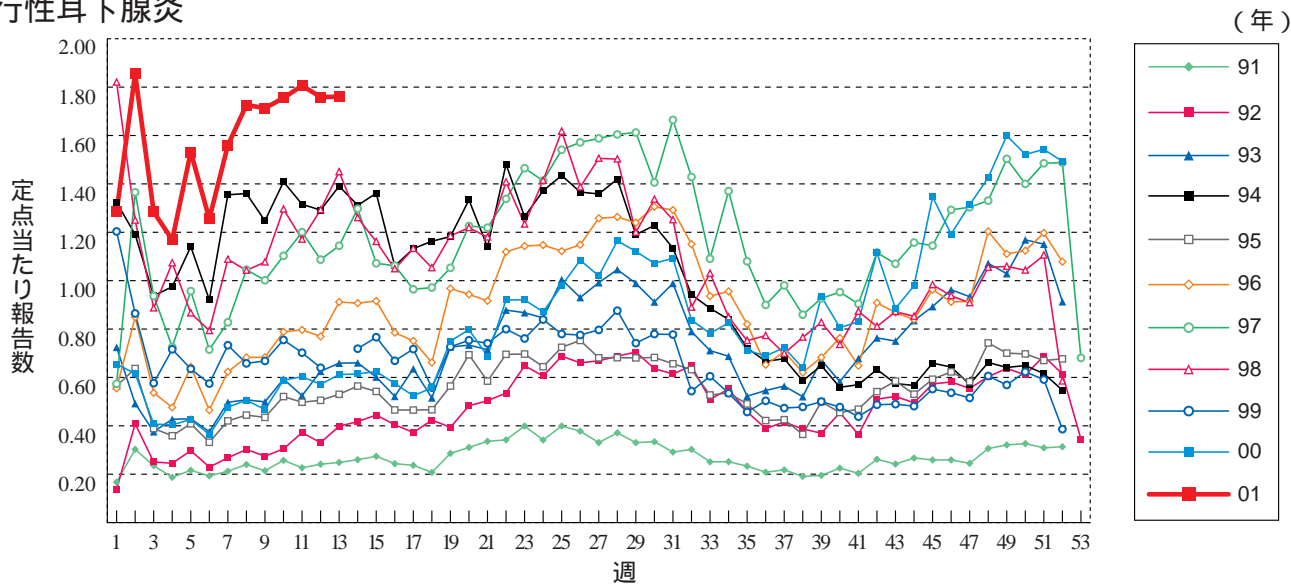
ヘルパンギーナ



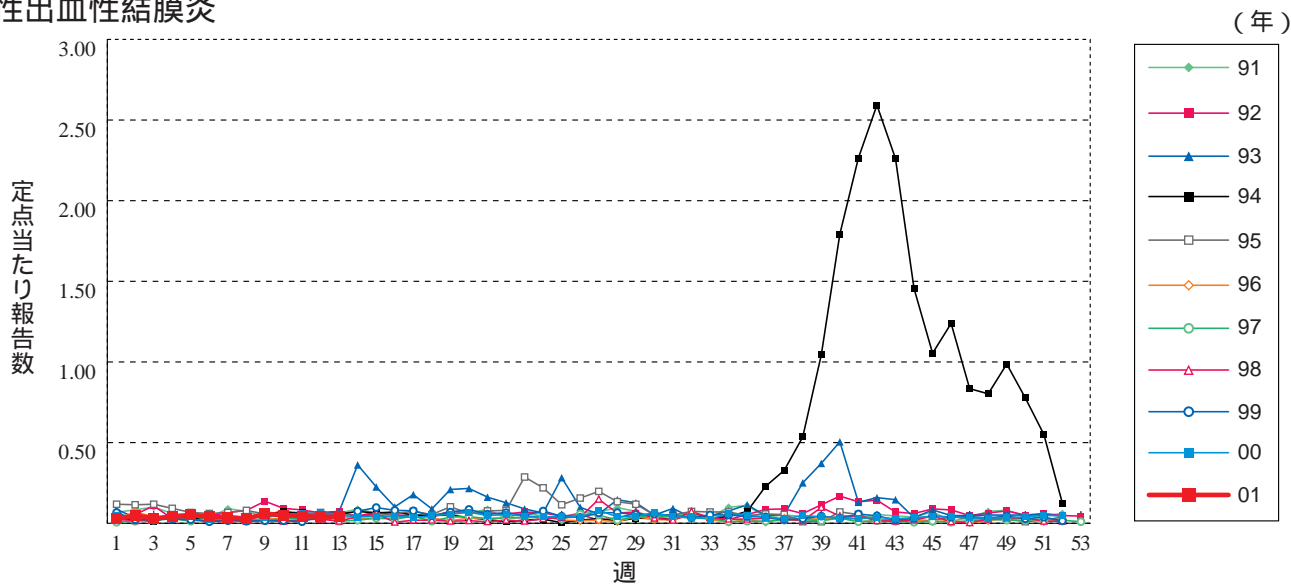
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



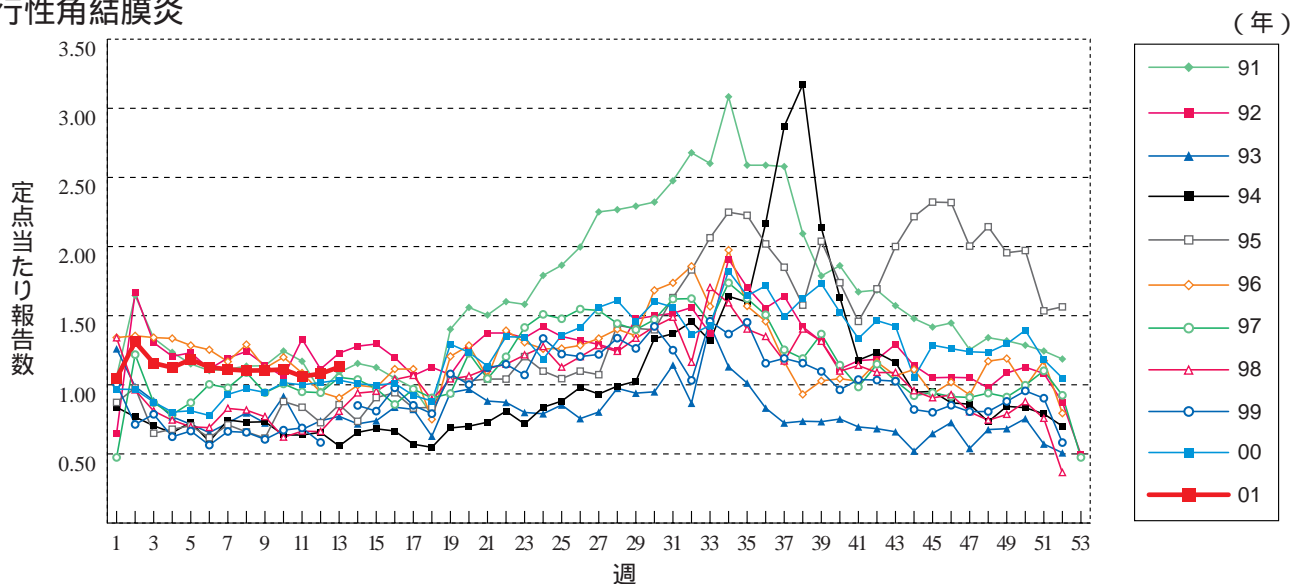
**流行性耳下腺炎**



**急性出血性結膜炎**

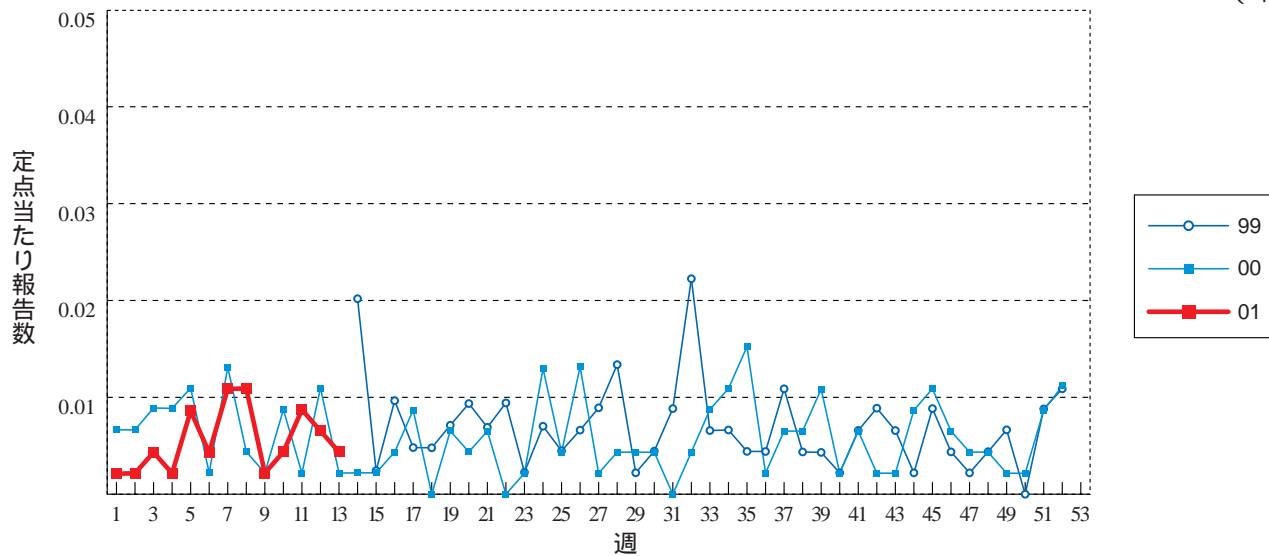


**流行性角結膜炎**



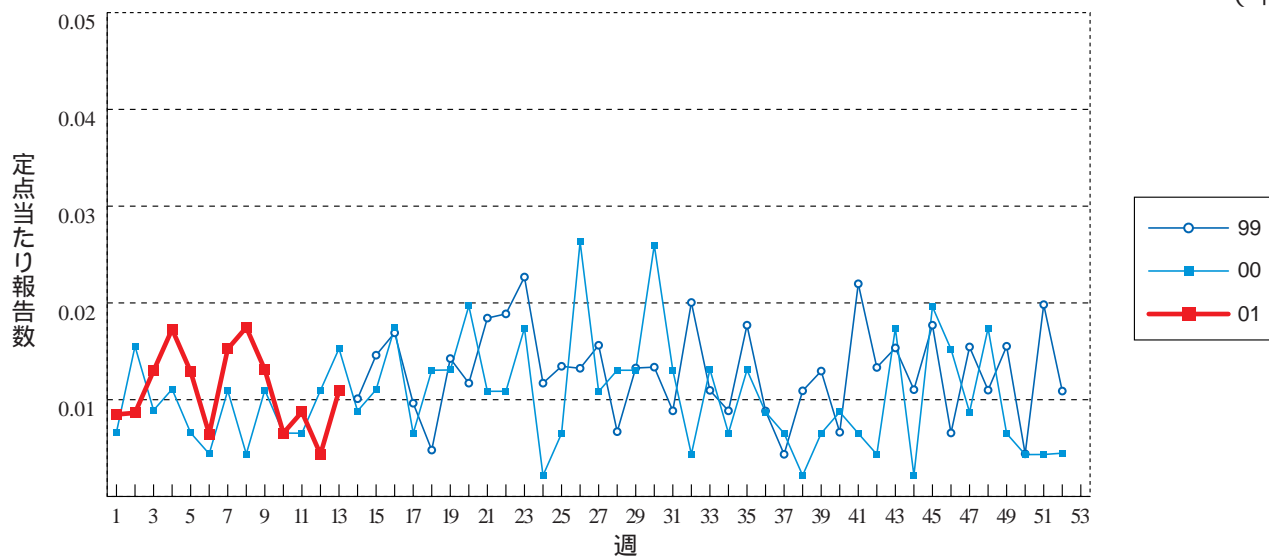
急性脳炎 (日本脳炎を除く)

(年)



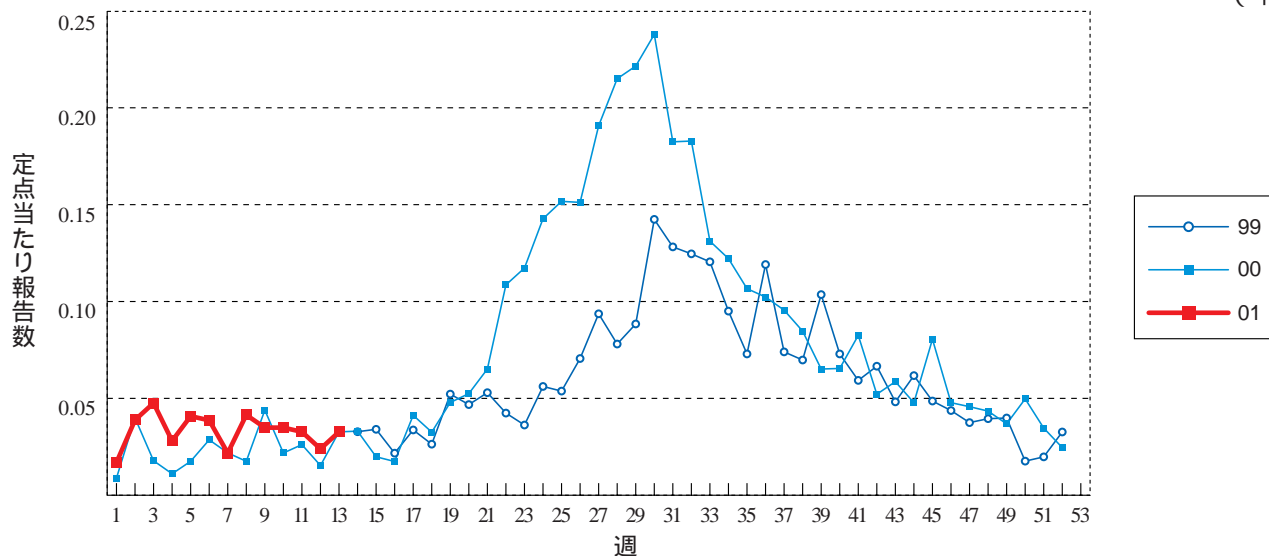
細菌性髄膜炎

(年)



無菌性髄膜炎

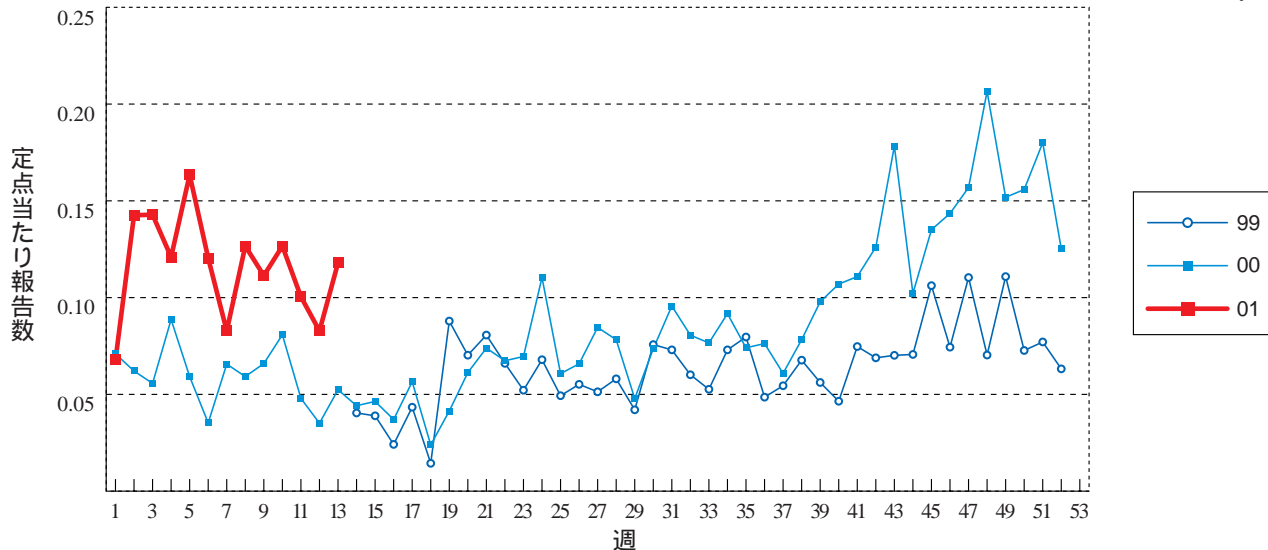
(年)





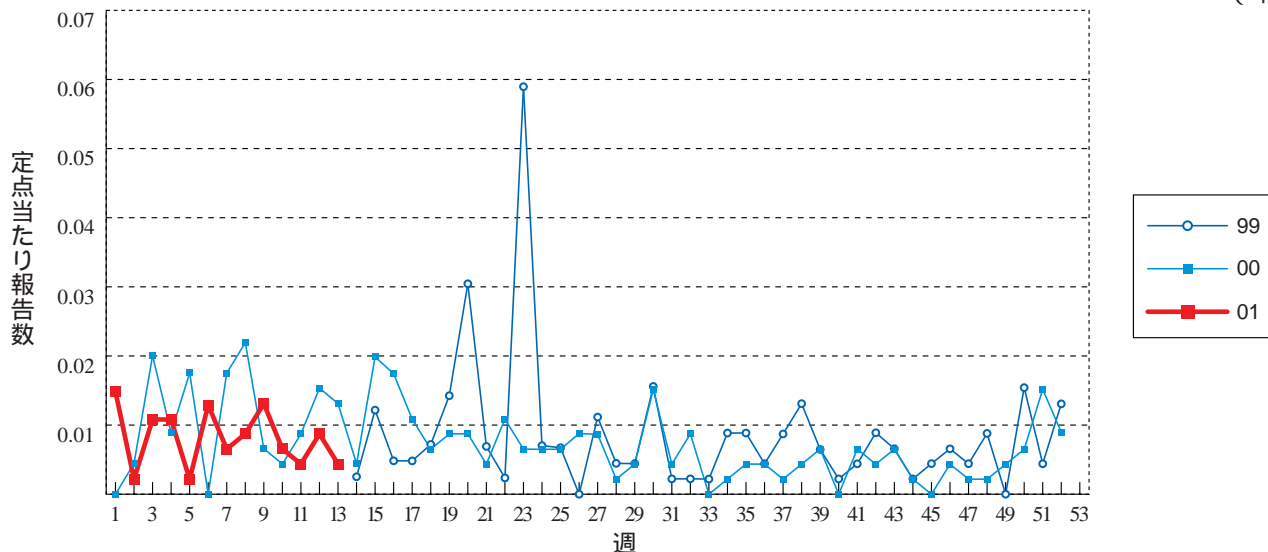
マイコプラズマ肺炎

(年)



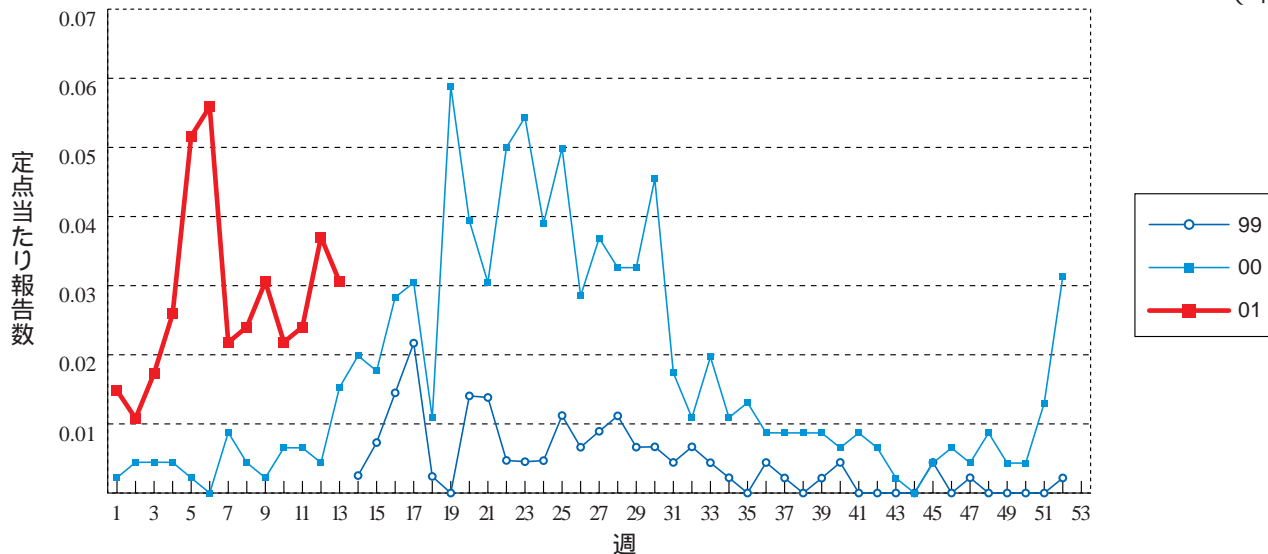
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





### 13週のデータ

注)表中の報告数は4月9日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年13週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	12	13	171	1	9	-	2
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3	1	1	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	11	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	1	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	31	-	-	-	-	2
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	13	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	8	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	10	-	1	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	18	-	4	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	4	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	11	-	1	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年13週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	38	238	4	91	-	1	-	-	-	9	-	-	8	140
北海道	-	-	-	-	-	2	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4
青森県	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
宮城県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
秋田県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
茨城県	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
栃木県	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
群馬県	-	-	-	-	-	1	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
埼玉県	-	-	-	-	3	15	-	6	-	-	-	-	-	1	-	-	-	5
千葉県	-	-	-	-	19	35	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
東京都	-	-	-	-	3	20	-	29	-	-	-	-	-	4	-	-	3	19
神奈川県	-	-	-	-	2	15	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
新潟県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
富山県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
石川県	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
静岡県	-	-	-	-	1	8	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	1	15	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
三重県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
滋賀県	-	-	-	-	-	7	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	1	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
大阪府	-	-	-	-	-	19	2	15	-	-	-	-	-	1	-	-	-	13
兵庫県	-	-	-	-	-	9	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	3	15
奈良県	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
鳥取県	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
島根県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
広島県	-	-	-	-	-	14	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
山口県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
徳島県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
愛媛県	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
高知県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	1	1
福岡県	-	-	-	-	-	13	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	2	7	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
大分県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
沖縄県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年13週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	5	-	-	-	1	-	23	1	12	14	192	-	1	3	34	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	1	-	-	-	1	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	1	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	2	13	-	-	-	1	-	-
東京都	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	4	82	-	-	1	20	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	2	22	-	-	1	3	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	3	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	5	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	1	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	4	-	-	-	3	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	3	10	-	-	1	4	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年13週

	髄膜炎菌性 髄膜炎		先天性風疹 症候群		炭 疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児 ボツリヌス症		梅 毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	3	-	-	-	-	-	44	-	8	-	-	-	-	-	-	4	134
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
東京都	-	1	-	-	-	-	-	2	-	5	-	-	-	-	-	-	1	28
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
愛知県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
大分県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年13週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	8	2	9	-	-	-	-	-	-	-	-	1	22	-	-	-	18
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
栃木県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
東京都	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6	-	-	-	2
神奈川県	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
大阪府	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1



第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成13年13週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水 痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百 日 咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	24993	5.40	375	0.13	2759	0.92	17983	6.00	6438	2.15	550	0.18	1156	0.39	2255	0.75	43	0.01
北海道	693	3.01	5	0.03	190	1.31	379	2.61	239	1.65	3	0.02	36	0.25	79	0.54	-	-
青森県	485	7.58	-	-	22	0.54	92	2.24	59	1.44	7	0.17	13	0.32	19	0.46	-	-
岩手県	763	12.31	1	0.03	30	0.79	139	3.66	80	2.11	1	0.03	24	0.63	24	0.63	-	-
宮城県	840	8.66	10	0.17	54	0.92	535	9.07	128	2.17	1	0.02	56	0.95	58	0.98	1	0.02
秋田県	687	12.49	2	0.06	21	0.60	220	6.29	36	1.03	-	-	18	0.51	25	0.71	-	-
山形県	407	8.66	-	-	74	2.47	218	7.27	48	1.60	4	0.13	32	1.07	27	0.90	-	-
福島県	592	7.40	1	0.02	37	0.77	227	4.73	52	1.08	8	0.17	15	0.31	29	0.60	-	-
茨城県	306	2.59	6	0.08	57	0.78	401	5.49	134	1.84	4	0.05	18	0.25	36	0.49	1	0.01
栃木県	185	2.64	3	0.07	80	1.74	285	6.20	113	2.46	4	0.09	12	0.26	43	0.93	1	0.02
群馬県	418	4.18	2	0.03	99	1.60	386	6.23	133	2.15	4	0.06	13	0.21	33	0.53	-	-
埼玉県	1363	5.32	8	0.05	198	1.25	1198	7.53	363	2.28	24	0.15	98	0.62	138	0.87	-	-
千葉県	590	2.95	36	0.28	151	1.18	928	7.25	307	2.40	15	0.12	87	0.68	82	0.64	-	-
東京都	359	2.02	4	0.03	41	0.29	562	3.96	162	1.14	2	0.01	62	0.44	77	0.54	1	0.01
神奈川県	997	2.98	24	0.12	128	0.62	1114	5.41	490	2.38	18	0.09	101	0.49	173	0.84	-	-
新潟県	728	7.35	19	0.32	182	3.03	508	8.47	85	1.42	-	-	8	0.13	66	1.10	2	0.03
富山県	424	8.83	1	0.03	41	1.41	182	6.28	52	1.79	2	0.07	5	0.17	27	0.93	-	-
石川県	396	8.25	3	0.10	28	0.97	348	12.00	66	2.28	10	0.34	6	0.21	26	0.90	-	-
福井県	249	7.78	9	0.41	38	1.73	183	8.32	44	2.00	1	0.05	13	0.59	15	0.68	-	-
山梨県	369	9.00	-	-	15	0.60	96	3.84	35	1.40	1	0.04	2	0.08	11	0.44	-	-
長野県	544	6.33	6	0.11	51	0.94	359	6.65	169	3.13	1	0.02	12	0.22	43	0.80	1	0.02
岐阜県	384	5.19	2	0.04	58	1.23	273	5.81	81	1.72	9	0.19	16	0.34	27	0.57	4	0.09
静岡県	1038	7.58	4	0.05	69	0.80	550	6.40	292	3.40	7	0.08	38	0.44	76	0.88	-	-
愛知県	1140	5.94	50	0.27	149	0.82	981	5.39	357	1.96	22	0.12	77	0.42	125	0.69	2	0.01
三重県	791	10.84	10	0.22	34	0.76	421	9.36	113	2.51	8	0.18	14	0.31	45	1.00	-	-
滋賀県	210	4.29	1	0.03	51	1.59	148	4.63	54	1.69	1	0.03	9	0.28	14	0.44	-	-
京都府	538	4.27	2	0.03	36	0.47	482	6.34	90	1.18	-	-	20	0.26	38	0.50	-	-
大阪府	1477	4.89	12	0.06	98	0.51	877	4.54	257	1.33	6	0.03	37	0.19	123	0.64	10	0.05
兵庫県	1075	5.43	11	0.09	80	0.63	927	7.24	222	1.73	32	0.25	22	0.17	128	1.00	1	0.01
奈良県	310	5.54	-	-	13	0.37	178	5.09	78	2.23	-	-	5	0.14	16	0.46	1	0.03
和歌山県	174	3.55	-	-	9	0.29	207	6.68	64	2.06	-	-	1	0.03	28	0.90	-	-
鳥取県	292	10.07	5	0.26	85	4.47	248	13.05	49	2.58	-	-	6	0.32	26	1.37	-	-
島根県	179	4.71	3	0.13	2	0.09	92	4.00	33	1.43	-	-	6	0.26	14	0.61	-	-
岡山県	334	3.98	45	0.83	35	0.65	365	6.76	114	2.11	3	0.06	8	0.15	38	0.70	-	-
広島県	239	2.91	7	0.14	38	0.75	474	9.29	146	2.86	3	0.06	29	0.57	48	0.94	9	0.18
山口県	492	7.03	34	0.69	41	0.84	353	7.20	175	3.57	16	0.33	12	0.24	49	1.00	-	-
徳島県	267	7.03	-	-	43	1.87	151	6.57	59	2.57	3	0.13	5	0.22	21	0.91	1	0.04
香川県	313	6.14	1	0.03	24	0.75	187	5.84	32	1.00	-	-	4	0.13	19	0.59	1	0.03
愛媛県	668	10.44	5	0.13	23	0.59	260	6.67	117	3.00	-	-	23	0.59	45	1.15	-	-
高知県	245	5.00	-	-	22	0.71	96	3.10	73	2.35	3	0.10	3	0.10	18	0.58	-	-
福岡県	697	4.28	3	0.03	110	1.05	597	5.69	248	2.36	64	0.61	92	0.88	73	0.70	1	0.01
佐賀県	278	7.13	2	0.09	15	0.65	152	6.61	73	3.17	20	0.87	17	0.74	29	1.26	1	0.04
長崎県	205	3.11	1	0.02	5	0.10	177	3.69	77	1.60	75	1.56	20	0.42	26	0.54	-	-
熊本県	231	2.85	27	0.55	56	1.14	342	6.98	142	2.90	54	1.10	19	0.39	38	0.78	1	0.02
大分県	471	8.12	2	0.06	43	1.19	302	8.39	112	3.11	8	0.22	6	0.17	46	1.28	1	0.03
宮崎県	568	9.47	2	0.05	41	1.11	425	11.49	194	5.24	78	2.11	27	0.73	40	1.08	2	0.05
鹿児島県	808	8.24	6	0.10	32	0.53	304	5.07	163	2.72	13	0.22	6	0.10	57	0.95	1	0.02
沖縄県	174	3.00	-	-	10	0.29	54	1.59	228	6.71	15	0.44	3	0.09	17	0.50	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成13年13週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	48	0.02	154	0.05	1128	0.38	5279	1.76	26	0.04	708	1.13	2	0.00	5	0.01	15	0.03
北海道	1	0.01	1	0.01	97	0.67	203	1.40	-	-	33	1.14	-	-	-	-	-	-
青森県	1	0.02	1	0.02	3	0.07	61	1.49	-	-	14	1.27	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	6	0.16	14	0.37	-	-	13	1.08	-	-	-	-	-	-
宮城県	2	0.03	1	0.02	16	0.27	15	0.25	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-
秋田県	1	0.03	-	-	17	0.49	25	0.71	-	-	9	1.29	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	1	0.03	64	2.13	-	-	4	0.50	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	3	0.06	45	0.94	27	0.56	-	-	9	0.75	-	-	-	-	-	-
茨城県	1	0.01	-	-	10	0.14	131	1.79	-	-	37	2.31	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	1	0.02	1	0.02	37	0.80	1	0.08	17	1.42	-	-	-	-	1	0.14
群馬県	-	-	2	0.03	22	0.35	52	0.84	1	0.07	25	1.79	-	-	-	-	1	0.10
埼玉県	4	0.03	30	0.19	44	0.28	498	3.13	2	0.06	32	0.89	-	-	-	-	-	-
千葉県	1	0.01	3	0.02	40	0.31	272	2.13	1	0.03	61	1.85	-	-	-	-	-	-
東京都	2	0.01	11	0.08	16	0.11	157	1.11	-	-	21	1.50	-	-	-	-	-	-
神奈川県	6	0.03	5	0.02	22	0.11	435	2.11	1	0.02	62	1.48	-	-	-	-	1	0.09
新潟県	-	-	1	0.02	1	0.02	218	3.63	-	-	11	1.22	-	-	-	-	1	0.08
富山県	-	-	-	-	-	-	32	1.10	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
石川県	1	0.03	-	-	21	0.72	35	1.21	-	-	3	0.43	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	8	0.36	160	7.27	1	0.33	-	-	-	-	-	-	1	0.17
山梨県	-	-	-	-	2	0.08	7	0.28	-	-	2	0.67	-	-	-	-	-	-
長野県	1	0.02	1	0.02	20	0.37	65	1.20	5	0.50	24	2.40	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	6	0.13	70	1.49	-	-	5	0.45	-	-	-	-	-	-
静岡県	2	0.02	-	-	7	0.08	245	2.85	-	-	14	0.70	-	-	-	-	-	-
愛知県	4	0.02	10	0.05	49	0.27	262	1.44	-	-	31	0.89	-	-	-	-	-	-
三重県	2	0.04	4	0.09	6	0.13	118	2.62	-	-	-	-	-	-	1	0.11	1	0.11
滋賀県	-	-	2	0.06	2	0.06	33	1.03	-	-	5	0.71	-	-	-	-	-	-
京都府	1	0.01	4	0.05	6	0.08	120	1.58	1	0.06	13	0.72	-	-	-	-	-	-
大阪府	7	0.04	20	0.10	76	0.39	305	1.58	2	0.04	9	0.17	-	-	-	-	-	-
兵庫県	1	0.01	11	0.09	15	0.12	144	1.13	2	0.06	32	0.91	-	-	1	0.07	1	0.07
奈良県	-	-	-	-	17	0.49	35	1.00	-	-	22	2.44	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	9	0.29	37	1.19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	9	0.47	17	0.89	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	31	1.35	-	-	3	1.00	-	-	1	0.13	2	0.25
岡山県	3	0.06	3	0.06	7	0.13	33	0.61	-	-	6	0.50	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	12	0.24	49	0.96	81	1.59	1	0.08	26	2.17	1	0.07	-	-	1	0.07
山口県	1	0.02	4	0.08	17	0.35	106	2.16	-	-	18	2.00	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	27	1.17	-	-	3	0.75	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	11	0.34	96	3.00	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	5	0.13	2	0.05	61	1.56	-	-	27	3.86	-	-	-	-	-	-
高知県	1	0.03	-	-	83	2.68	12	0.39	-	-	4	1.33	-	-	1	0.13	-	-
福岡県	4	0.04	2	0.02	69	0.66	388	3.70	-	-	25	1.04	-	-	-	-	2	0.13
佐賀県	-	-	1	0.04	2	0.09	78	3.39	-	-	1	0.25	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	5	0.10	6	0.13	42	0.88	7	0.70	34	3.40	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	3	0.06	105	2.14	215	4.39	-	-	12	1.33	1	0.07	-	-	2	0.13
大分県	-	-	2	0.06	88	2.44	76	2.11	-	-	6	1.20	-	-	-	-	1	0.10
宮崎県	1	0.03	5	0.14	28	0.76	48	1.30	1	0.25	14	3.50	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	1	0.02	36	0.60	50	0.83	-	-	8	1.33	-	-	1	0.08	-	-
沖縄県	-	-	-	-	31	0.91	41	1.21	-	-	9	0.90	-	-	-	-	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成13年13週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	54	0.12	2	0.00	14	0.03
北海道	-	-	-	-	2	0.09
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	3	0.15	-	-	-	-
宮城県	4	0.33	1	0.08	-	-
秋田県	4	0.50	-	-	-	-
山形県	2	0.22	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	1	0.14	-	-	-	-
群馬県	2	0.20	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	1	0.11
千葉県	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	1	0.04
神奈川県	1	0.09	-	-	-	-
新潟県	1	0.08	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-
福井県	2	0.33	-	-	-	-
山梨県	5	0.50	-	-	-	-
長野県	-	-	1	0.09	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-
愛知県	3	0.23	-	-	1	0.08
三重県	1	0.11	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-
兵庫県	1	0.07	-	-	1	0.07
奈良県	-	-	-	-	-	-
和歌山県	1	0.09	-	-	-	-
鳥取県	4	0.80	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-
岡山県	2	0.40	-	-	-	-
広島県	8	0.57	-	-	1	0.07
山口県	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	1	0.20
愛媛県	2	0.33	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	4	0.50
福岡県	3	0.20	-	-	2	0.13
佐賀県	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-
熊本県	1	0.07	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-
宮崎県	1	0.14	-	-	-	-
鹿児島県	1	0.08	-	-	-	-
沖縄県	1	0.14	-	-	-	-

感染症週報 第3巻、第13号 平成13年4月13日発行  
発行：国立感染症研究所

厚生労働省健康局結核感染症課  
厚生労働省大臣官房統計情報部

事務局：国立感染症研究所感染症情報センター  
〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1  
TEL：03-5285-1111  
FAX：03-5285-1129

URL：http://idsc.nih.go.jp/index-j.html  
<国立感染症研究所 感染症情報センター>  
http://www.mhlw.go.jp/  
<厚生労働省>  
http://www.forth.go.jp/  
<旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所)>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。